

No.230日

2019年
8月号

さくら

図書館だより

(編集・発行)

宿毛市立坂本図書館

〒788-0001

宿毛市中央二丁目7番14号

☎ 0880-63-2654

FAX 0880-63-0155

展示のご案内

展示期間 8月29日(木)まで

★メイン展示

『夏休み、読んでみよう！ やってみよう！』

いよいよ夏休み。図書館でも、「夏休みに読んでみよう！やってみよう！」と題して、

- ・小学校低学年におすすめの本
- ・小学校高学年におすすめの本
- ・中・高校生におすすめの本
- ・自由研究

という4つのコーナーを設けました。



●メイン展示図書(抜粋)

「はじめての万葉集 上・下」・「みえるとかみえないとか」
「アイデアいっぱい! 自由研究大ひゃっか」・「赤いペン」

《中学生の職場体験学習》

片島中学校の生徒さんが職場体験学習に来てくれました。本の整理や貸出・返却作業などを2日間にわたって真面目に取り組んでくれました。



★サブ展示

『戦争を詠む』

今回のサブ展示は2つ。終戦の日に合わせて「戦争を詠む」、8月は平和について考えてみませんか。



●サブ展示図書(抜粋)

「戦争と看護婦」・「8月6日のこと」・「原爆」
「兵隊さんに愛されたヒョウのハチ」・「ドームがたり」

『しげちゃん一座』

もう1つはいよいよ8月17日に開催される『宝くじ文化公演 絵本ライブショーしげちゃん一座』に合わせて、「しげちゃん一座」と題して、室井滋さんと長谷川義史さんの絵本を展示しています。ぜひ、ご覧ください。



読んでみませんか？

-新着図書のご案内-

(一般)

非認知能力を育てる遊びのレシピ

大豆生田啓友・大豆生田千夏 著
講談社

IQなど数値で測れる知的能力に対して、心や社会性を育む「非認知能力」に最近少しずつ注目が集められています。

これから先の未来、人工知能社会に突入し、子どもたちに求められる力は未知のもの。そこで感情コントロールやコミュニケーションに関する「非認知能力」が重要とされているのです。本書では家庭で楽しく実践できるアイデアが盛り沢山。楽しい子育てに少し取り入れてみてはいかがでしょうか。

(樫田)

(児童)

なぜなに日本語もっと

関根健一 著
三省堂

足がつった？足をつった？

水は「漏れ」、雨は「漏り」。

「弱冠」は何歳のこと？

私たちが身近に使っている言葉に潜む謎や落とし穴を発見し、解き明かしていく。

なにげなく使っている日本語ですが、使い方が間違っているかも？

確かな語彙力を身につけるためにぜひこの本を読んでみてください。

(岡村)

(一般)

店長がバカすぎて

早見和真 著
角川春樹事務所

契約社員、時給998円。

店長が、小説家が、弊社の社長が、営業がバカすぎて「マジ辞めてやる！」でも、でも…。

本を愛するがゆえ、書店員としての葛藤がとてりリアルに描かれ、終盤のドラマティックな展開も絶妙で、最後には驚きの事実が…。

最後まで、店長に振り回された感はありませんでしたが、話に引き込まれ、読み終わった後はいろいろとスッキリした感じになるそんな一冊です。

(尾崎)

(児童)

タヌキのきょうしつ

山下明夫 作
あかね書房

明治6年1月、広島県で初めての小学校ができ、子どもたちは大はりきりで勉強をしています。そんな様子を見ていた校庭のクロガネモチの木の下に住むタヌキのお父さんは、子どもに化けて自分も学校に通います。勉強が楽しかったタヌキのお父さん、さっそくタヌキの子どもたちに夜の教室で教え始めるのですが…。

戦争で原爆が落とされた広島をタヌキを通して描かれた物語。夏休みにぜひ親子で読んでみては？

(山口)

思い出1 「月のない夜のピアノ」 松澤まり子

三才の頃、ピアノを習いに母に連れられて行った。確か本町辺りの家で階段を下りていくと教室はあった。最初のレッスンは、ドドドドド、レレレレレ。先生は若くきれいな方だったと思う。母は横でレッスンを見ていた。宿毛保育園にいた頃だ。なかなかお迎えが来なくていつも最後まで砂場で遊んでいた。こんこ、という砂場で砂を固めて遊んだりしていた。たまに優しい先生が声をかけてくれた。わたしがコッカースパニエルのような髪型をしていた頃。新港の辺りにまだ自動車学校があった時代の話だ。母はそこで免許証をとったそう。わたしはおてんばでドラム缶の上を走り回って遊んでいた。(写真があった。嬉しそうに空を？上の方を見上げてドラム缶の上で笑っている写真だ。ミトンなんかつけて)父のふとももの上に座るのが心地よくて大好きだった頃だ。

今はなき住居兼用の二階建てのコンクリートでできたガソリンスタンド。事務所の後ろにお風呂場と台所があった。北向きで、よくスタンドのドアから北の山を見たものだ。こんびらさんに行く山。今も緑がいっぱい。今年、神奈川から父に会いに帰省してくれた叔父が歩いた山道の写真をメールで送ってくれた。わたしも子どもの頃、父と大晦日に登ったことを思い出し懐かしかった。

父母は事務所から二階に上がるドアに大きな白い紙をかけてくれて(たぶん終わったカレンダーの後ろの白い紙や新聞広告の裏)、わたしに落書きをさせてくれた。楽しくて、いっぱい描いた。わたしはどうやら絵を描くのが好きだったらしい。

父は出張の度にお土産を買ってくれた。初めて買ってきてくれたと記憶にあるのは熊のぬいぐるみだった。赤いフェルトのチョッキを着て赤いさくらんぼや緑の葉や黄色の飾りなどもあったと思う。熊を見たとき、わたしは嬉しくてスタンド中をくるくると走り回った。その頃は設置型の計量器でその周りを回った。

わたしはおてんばだった。事務所でメーカーの方か誰かと商談をしている父にお構いなく店につけていた日よけのテントの上にビー玉を投げて遊んで、父にこっぴどく尻を叩かれた。悪さをすると父に裏の倉庫に閉じ込められた。薄暗いオイルなんかのある倉庫に。よく泣いた。よく遊んでよく泣いた。本当に子どもらしい生活を送らせてもらったことは両親に感謝したい。

当時、母は宿毛佐伯フェリーに乗って別府に行き病気を治していた。フェリーに乗ると沢山の紙テープが見送る人と乗車する人につながっていて

とてもきらびやかで華やかだった。船の中でリカちゃん人形でわたしは遊んだ。家とセットになって持ち運びができるものだ。真っ赤なお家のトラック型。家の背景も三枚くらい入っていて紙芝居のように替えられた。船の中で誰か女の人がわたしに声をかけてくれて、そのひとの優しさだけがこころに残っている。たぶんその頃に宿毛市で映画のロケが行われ、母とわたしはエキストラで映画に出た。沖の島で住民を助けた助産婦さんの映画だ。片島の栈橋を主人公とすれ違う役だった。「孤島の太陽」という映画だった。わたしは随分後になり母が友達に語るのを聞いて知った。

今年7月に知ったのだが、父は宿毛商工会議所の元を作った世代だった。母が言うには初めての商工会記念に妻たちはエプロンを揃えて作ったそう。その記念式典に振袖姿の女性たちがいる写真を見つけた。

足ふみの黒ミシンで母が人形のお布団を作ってくれたりした。母は裁縫はあまり好きじゃなさそうだったが、わたしがお願いと作ってくれた。着物の端切れなどで。

父は当時、商店街にあった映画館の配達にわたしも連れていってくれた。セントラルだったかな。裏口のようなところから松竹だか東映だかの映画を見た記憶がある。父はよく配達にわたしを連れて行ったのだ。そのせいか軽トラに乗ったお父さんと子どもさんを見ると微笑んでしまう。

初めてまともに映画を見たのは小学生高学年の頃、父に連れられて行った宿劇で「ジョーズ」だった。二階で見たと思う。足元のコンクリートの床を覚えている。ものすごく怖かった。そのせいかそれからスピルバーグ監督のファンになった。

保育園に通っている頃は10円のお小遣いを掌に握りしめて何を買おうかなと、てくてく歩いて近所のお店に行きいも飴なんか買ったり。茶色の平べったい正方形のいも飴。美味しかったなあ。もうないかなあ。その頃は近所の子どもたちと毎日遊んだ。なわとびやゴム跳び、けんけんば、鬼ごっこ、外で遊んだ。そんな時代だった。

お正月には母の実家に両親と行った。まだ土間や台所にはかまどのある家だった。今では時代劇などで見ると、あ、懐かしい、と思ってしまう。お正月だから黄八丈の着物とか着て連れられて、いとこたちと羽子板をついたり。ごちそうは皿鉢料理だったか忘れたが、お正月は親戚が集まり祝うものだった。

～新着図書のご紹介～

一般図書



- | | | |
|---|--------------------------|------------|
| 0 | 「アレクサvsシリ」 | ジェイムズ・ブラホス |
| 1 | 「70歳のたしなみ」 | 坂東眞理子 |
| 2 | 「47都道府県・名字百科」 | 森岡浩 |
| 3 | 「やっちはいけない暗記術」 | 石井貴士 |
| 4 | 「月たった2万円のダイエットふたりごはん」 | 奥田けい |
| 5 | 「世界のおつまみレシピ」 | 本山尚義 |
| 6 | 「『値づけ』の思考法」 | 小川孔輔 |
| 7 | 「まあまあふうふう。」 | 八千草薫 |
| 9 | 「希望の糸」 | 東野圭吾 |
| 9 | 「ルパンの帰還」 | 横関大 |
| 9 | 「むかしむかしあるところに、死体がありました。」 | 青柳碧人 |
| 9 | 「君たちは今が世界」 | 朝比奈あすか |
| 9 | 「カザアナ」 | 森絵都 |
| 9 | 「夏の騎士」 | 百田尚樹 |
| 9 | 「我らが少女A」 | 高村薫 |
| 9 | 「ランチ酒 -おかわり日和-」 | 原田ひ香 |
| 9 | 「さよならの儀式」 | 宮部みゆき |
| 9 | 「家康謀殺」 | 伊東潤 |
| 9 | 「緋の河」 | 桜木紫乃 |
| 9 | 「へぼ侍」 | 坂上泉 |
| 9 | 「旧友再会」 | 重松清 |
| 9 | 「愛が嫌い」 | 町屋良平 |
| 9 | 「旅ドロップ」 | 江國香織 |
| 9 | 「愛してるって言えなくたって」 | 五十嵐貴久 |

※左側の数字は図書の分類を表しています。
 0...総記、1...哲学、2...歴史、3...社会科学、4...自然科学
 5...技術、6...産業、7...芸術、8...言語、9...文学

児童図書



- | | |
|---------------------------------|-------|
| 「しかけがいっぱいの貯金箱工作 -詳しい作り方解説つき-」 | 寺西恵里子 |
| 「意味がわかると鳥肌が立つ話」 | 蔵間サキ |
| 「タコのターくんうみをでる」 | 内田麟太郎 |
| 「国谷裕子と考えるSDGsがわかる本」 | 国谷裕子 |
| 「へんなともだちマンホークン -きょうふのきょだいそうじき-」 | 村上しいこ |
| 「ぼくたちは卵のなかにいた」 | 石井睦美 |
| 「自由研究できたえる!!ホンモノの考察力」 | 沼田晶弘 |
| 「手と手をぎゅつとにぎったら」 | 横田明子 |
| 「走れ!メープル」 | 菅聖子 |
| 「ぼくんちの海賊トレジャ」 | 柏葉幸子 |

絵本



- | | |
|-------------------------------------|--------|
| 「おかあさん! -ちいさないえでのものがたり-」 | 塚本やすし |
| 「チョコちゃんに叱られる -なぜ、ひととわかれるときにてをふるの?-」 | 海老克哉 |
| 「なっちゃんのなつ」 | 伊藤比呂美 |
| 「おにゃけ」 | 大塚健太 |
| 「きんぎょすくいめいじん」 | 松成真理子 |
| 「さかながはねて」 | 中川ひろたか |
| 「キリンのあかちゃんがうまれた日」 | 志茂田景樹 |
| 「アンパンマンとだだんだん」 | やなせたかし |

★このほかにもたくさんの図書が入っております。
 図書館ホームページでは、月ごとの新着図書一覧を公開しておりますので、そちらもぜひご覧ください。

8月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

9月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

開館日時 火～金 10:00～18:30 土・日 10:00～18:00 ■ は休館日
 ホームページ <http://www.city.sukumo.kochi.jp/sbc/library/index.html>
 メールアドレス tosyo@city.sukumo.lg.jp